てんぐ新聞

待ちに待った(?)オープンカフェが、十月十五日オープンしました。第四回目と同じく若林地区の高橋家にお世話になりました。

今回も、"寒いってよう"、"早くやろうよ"とせかされて、動かされたという印象がございますが、いやではありませんよ。むしろ、やる気のある人が出現して嬉しい限りです。どちらかというと、俺人まかせの風潮がある組方のゆがみ目うやっちゃうぞ"という人がいたのでは、こんないい事ありません。

今回は、ケーキだけではなく肉まんあり、ぜんざいありのメニュー。

肉まんは、うどん作り"朝早くから手がけた一品。大変おいしくて、ご五個も食べた人がいたとか。ぜんざいもおいしかったし、野菜なども少しずつが並べられたりで、今後楽う場所作りには、アイデアが光ると出てきます。

前回は、コーヒーが"えっ"これがコーヒー"と多少苦情の様なものもありましたが、なんとかしました。

悪魔のように黒く
地獄のように熱く
天使のように清く
愛のように甘い
珈琲の名は

やっぱり え～なあ オープンカフェ

第二弾

年明け早々に肥前が、"十の岡さん ありがとう"もう人が生活ぜんそくに子供のお祭ぜでした。

ぼちぼち連で頑張ってと湖をこしらり、ゆびぼうをを作るのも大変なエネルギーがないとはいえ、病人をこと折々にこの様子年末年始にお客様で賑わう祖谷の一角の様子だけど、祖谷にまれ祖谷育ち、祖谷で育ち祖谷を後にしなければいけないのは寂しい限りです。

のでえ長く暮らして下さい。家にこもらないようにネをあげて頑張り、いつでも誰かがだろう いつでも誰かがまろんれる様なおますが、早く その場所をみつけたいものです。いい場所があれば ご一報下さいな。

なんとか今年中に拠点をみつけ定期的に、そして毎日オープンしたいのにとおもいます。

二年の目標にも書きましたが、なるべき場所をみつけ定期的に、多くの人が来られる場所になればいいなあと思います。

お客の名前が"多佐作屋(おいわあ)"です。

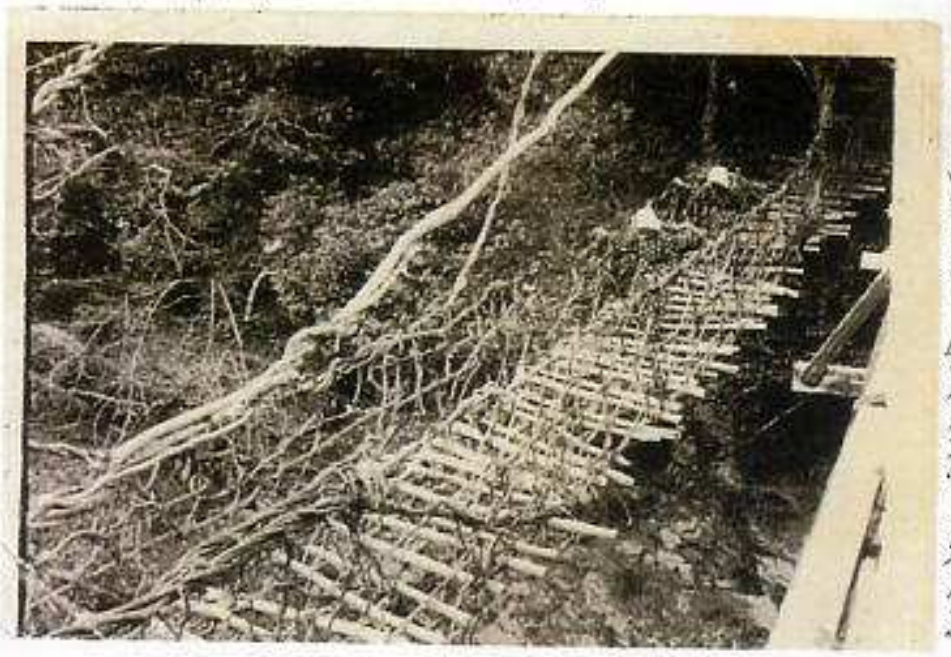
来月に200号

このご新聞が来月で二〇〇号になります。すでに二〇〇号記念のはがきも発送ましたが、嬉しい限りです。

一九九七年二月にこの会という形でスタートしてから、今年で八年目を迎えました。

月一回の新聞です。片面だけでしたが、ずいぶんと多くの方々にご協力をいただくようになりました。

それが、今では三〇枚。内容はともかく、相当の厚みをお届けしています。というのも会内容のごはないのだ、片寄っていることは否定がありませんよ。



'14.1.No.199
発行 有限会社
責任 [illegible]
0883-66-52[illegible]